

令和 6 年度冬期企画展開催要領

1 名称

あかりの道具－火と光、人の文化史－

2 趣旨

火は人の生活に大いに役立ってきました。調理、暖房だけでなく、その光は人々に夜間の行動を可能としました。火の扱いは、様々な道具を駆使することで、多方面に展開しますが、その移り変わりはまさに日本文化史といえます。

この度、厚木市在住の写真家・加藤芳明氏がその半生をかけて収集した灯火具、関連資料が厚木市に寄贈されることになりました。今年の「火之用心の掛軸」150 点と合わせ、その数は 1,000 点にもなります。これを記念し、「あかりの道具－火と光、人の文化史－」と銘打った展示会を開催いたします。

木を燃やすだけの簡単なものから、^{あつき}圧搾空気を利用した複雑なものまで、灯りの道具によって日本文化史の一面を紹介します。

3 展示構成

prologue あかりの道具を撮る（廊下ギャラリー）

- ・「あかりの道具」加藤芳明氏作品

(1) 発火具と焚火のあかり

- ・舞い切り、火打ち道具、附木、附木の製造
- ・かがり火なべ、たいまつ、ひでばち、竹灯り

(2) 油のあかり

- ・たんころ、ひょうそく、灯台、行灯、瓦灯
- ・鼠短檠、無尽灯、カンテラ、油入れ、灯芯

(3) ろうそくのあかり

- ・燭台、ぼんぼり、提灯、手提げ提灯、がندوق、傘提灯、からくり提灯、枕行灯、ろうそくランプ、ろうそく製造道具、ろうそく

(4) 石油のあかり ガスのあかり

- ・石油ランプ、カンテラ、石油ガス灯、軒灯くそうずカンテラ
- ・ガス灯、アセチレンランプ

(5) 描かれたあかりの道具

- ・引き札、浮世絵、書、軸など

epilogue あかりの道具に魅せられた人々（展示室中央）

- ・「日本照明学会」の人々、照明関連資料等

4 会期(予定) 令和7年1月18日(土)から3月2(日)まで

5 会場 あつぎ郷土博物館 1階特別展示室、エントランスホール

6 主催 厚木市

7 協力 神奈川県立歴史博物館、松蔭大学資料館、横浜市歴史博物館、愛川町郷土資料館、小林 克（松蔭大学）、富永樹之（神奈川埋蔵文化財センター）、武井慎悟（鶴見大学仏教文化研究所）、新井裕美（神奈川県立歴史博物館）

（順不同、敬称略）

8 関連事業 ＊場所は、あつぎ郷土博物館 1階体験学習室 他

(1) 関連講演会

① 1月 13時30分から15時30分

「(仮)あかりの道具と博物館」

小林 克（松蔭大学教授）

② 2月 13時30分から15時30分

「(仮)たんころ、ひょうそく 在地系の灯火具」

富永樹之（神奈川埋蔵文化財センター）

(2) 体験講座

① 2月 16時30分から18時

「(仮)灯りをともす 昔のあかりを体験する」

加藤芳明(写真家協会会員)

② 2月 13時30分から16時

「(仮)博物館WS ランプシェードづくり」

博物館職員